

インターンシップのお願い



インターンシップとは

学生が、在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことで、学校と企業等との連携によって行われるものです。

インターンシップのメリット

企業

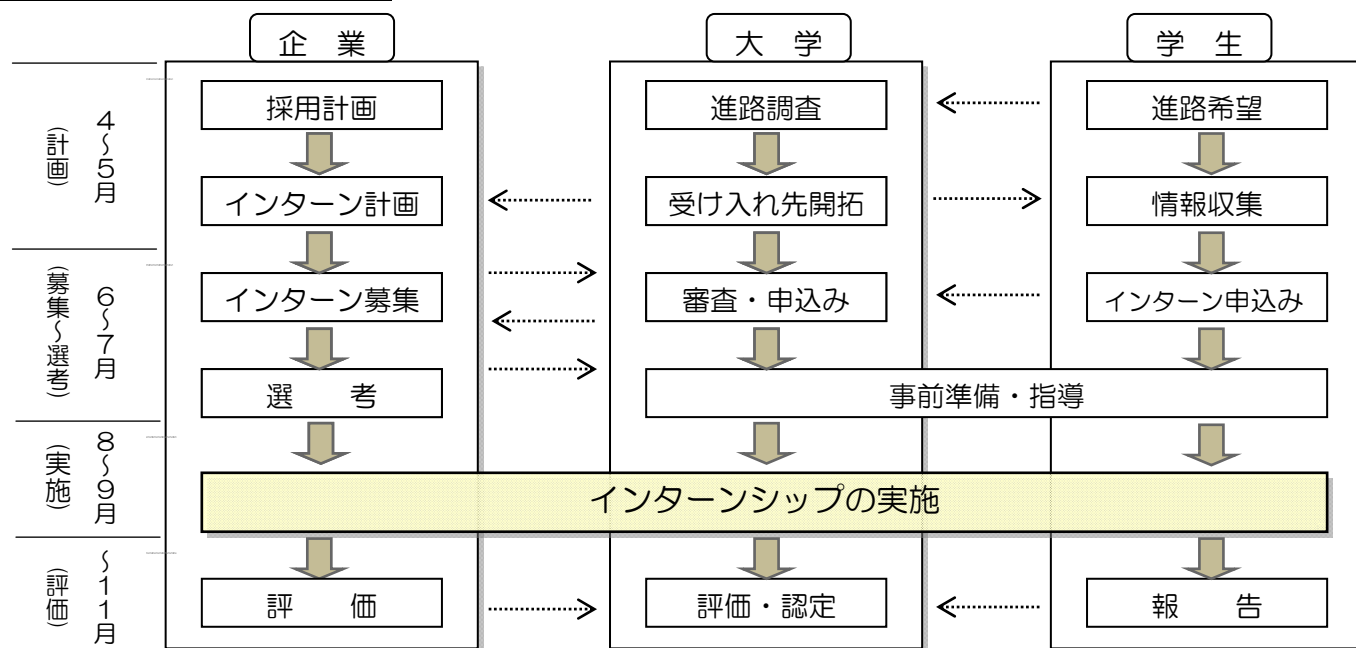
1. 実社会への適応能力の高い学生の育成に寄与できる
2. 企業の内容について、大学・学生に理解してもらうPRの機会になる
3. 企業ニーズを学校側に伝え、教育内容に反映できる

学生・大学

1. 学生の主体的な職業選択や職業意識の向上に役立つ
2. 学習の方向付けができ、学習意欲を高めることができる
3. 大学にとって、教育内容の充実、教育方法の改善が図れる

人材の確保・離職率の低減・就職率の向上

インターンシップ実施の流れ



インターンシップの内容

- (1) 実施対象…学部3年生が原則。但し、全学年（大学院生含む）も可とする
- (2) 時期期間…8～9月の2週間（10日間）が原則。但し、1日以上も可とする
- (3) 準備…採用計画等を基に実施計画（期日、テーマ、人数、カリキュラム等）を作り、募集と選考を行う
- (4) 実施…担当部署、責任者を決めインターンシップを受け入れ、実施後に評価を行う
- (5) その他…ご希望によりカリキュラム等の作成については、別途協力致します

(注) 本事業は文部科学省から委託の「大学生の就業力育成支援事業」の一つとして推進しています。

お問合せ先

茨城大学工学部 学務第一係

茨城大学工学部 インターンシップ事務局

(担当：黒崎、河合、森村、斉藤、皆川、長谷川)

〒316-8511 茨城県日立市中成沢町 4-12-1

TEL 0294-38-5009 FAX 0294-38-5260

TEL 0294-38-5036

e-mail : kurosa@mx.ibaraki.ac.jp

機械工学科 〔人と環境にやさしい機械をつくる〕

工業用ロボットなどに代表される「ものづくりを支える技術」について多方面から学びます。1年次で十分な基礎学力を習得した後、2・3年次ではより高度な専門科目を学び、演習形式の授業で応用力を磨き、さらに実験・実習を通してエンジニアとして不可欠な物理的感覚を身につけ、4年次では卒業研究を通じて最先端の研究に取り組みます。

生体分子機能工学科 〔化学で拓くバイオの世界〕

生命のもつ複雑な機能を分子レベルで解き明かし、さまざまな産業分野に応用することのできる研究者・技術者の育成を目指しています。2年次までは化学、物理学、生物学などの基礎教育を行い、3年次からは応用機能化学コースと生命電子情報コースに分かれて、より専門的な知識・技術を習得できるカリキュラムで教育を行います。

マテリアル工学科 〔環境とIT社会を支える“ものづくり”〕

環境を考慮しながら情報社会および社会基盤を支える材料を創造、研究する学問です。近未来の乗物、例えばエコ自動車、次世代航空機などの実現には材料の研究が重要なカギとなります。環境ナノテクノロジー、計算材料学を包括したカリキュラムが組まれています。

電気電子工学科 〔夢ひろがるユビキタス社会を創る〕

1年次、2年次には、電気電子工学の基礎となる科目を十分に理解させるため、2クラス制による少人数教育及び十分な演習を含むカリキュラムを用意しています。3年次からは電気システムと電子システムの2コースに分かれ、最先端の専門知識を身につけ幅広い分野で活躍しています。

メディア通信工学科 〔総合的情報通信技術の創造〕

今日、携帯電話やパソコンを用いて、さまざまなマルチメディア情報を手軽にやり取りできるようになりました。これは通信技術とコンピュータ技術(情報の処理や蓄積)の融合により実現されたもので、今後さらに低コストで高品質な通信を実現するため、新たな情報通信技術を研究開発できる技術者を養成します。

情報工学科 〔コンピュータとネットワークのプロ〕

現代社会はコンピュータとそのネットワークを抜きには考えられません。流通・金融・製造など、さまざまな分野で必要不可欠です。「コンピュータとネットワークのプロ」になる為に幅広い分野の勉強と研究をし、講義・演習・実験・卒業研究では学問的基礎を中心にすえ、最先端の知識を修得し、進化し続ける情報工学の考え方を修得します。

都市システム工学科 〔都市の安全・環境・快適を創造〕

輝ける未来の社会・都市環境の創造・再生を目指して、幅の広いバランス感覚を持った土木系技術者を育成します。幅広い分野の授業科目を勉強するとともに、現場見学会や社会人による講義、インターンシップなどで最新の問題や知識・技術を学びます。4年次は教員と一対一で細かい指導を受け、最先端の卒業研究に取り組みます。

知能システム工学科 〔コンピュータ×メカ＝「夢技術」の実現〕

身の回りのほとんどの製品は、コンピュータとメカの融合の上に成り立っています。この知的なメカシステムを支えるメカトロニクス・設計と製造・コンピュータ・ヒューマンインターフェース技術と、これらの応用(例えばロボット工学)に関する知識と能力を身につけ、私たちを取り巻く多様な問題の解決に前向きに取り組める技術者を育成します。